

中原紘之・鯨坂哲朗：梅崎 勇先生の御逝去を悼む

Hiroyuki Nakahara and Tetsuro Ajisaka : Dr. Isamu Umezaki (1925-1995)
in memoriam.



元京都大学農学部教授・福井県立大学生物資源学部海洋生物資源学科教授梅崎勇先生は去る10月2日午後4時21分、小浜市内の入院先の病院で心筋梗塞のため70才の生涯を閉じられました。先生は大正14年4月18日福井県大飯郡加斗村飯盛（現小浜市）でお生まれになりました。昭和20年4月北海道帝国大学理学部植物学科に入学され、山田幸男先生のもとで藍藻類の分類学の研究を学ばれました。昭和23年3月に卒業後、ただちに京都府舞鶴市に前年開設された京都大学農学部水産学教室の助手に採用され、水産生物学講座で米田勇一先生と共に水産植物学の分野を担当されました。昭和46年同講座助教授になられた後、昭和56年4月に新設された農学研究科熱帯農学専攻水産資源学講座の教授に昇任されました。再び新設の講座で、新専攻ならびに新講座を軌道に乗せ昭和64年3月に定年退官されました。定年退官後は、(株)関西総合環境センターで技術顧問を勤められる傍ら、自宅の2階に作られた研究室で研究を続けておられました。平成3年4月より新設されました福井県立大学生物資源学部の教授に就任され、来年3月に第1回の卒業生を送り出すと共に退官の御予定でした。

先生は戦後の創立間もない教室で、実験器具や文献がほとんどない状態のもとで海産藍藻類の研究を始められました。鉄道および食糧事情がまだ悪い時代を日

本各地へ採集旅行をされ、また世界各地の博物館から基準標本等を借り、昭和34年に「The marine blue-green algae of Japan」を完成し、北海道大学より理学博士の学位を授与されました。

その後先生はライフワークであった海産藍藻類の研究を継続される傍ら、真正紅藻類や褐藻類の生活史、ホンダワラ類の生態と幅広く研究されました。この時期の研究にはスウェーデンのフリース博士との同時発見となったウミゾウメン目の生活環における四分胞子体の発見などがあります。また水産上の藻場の重要性に早くから注目され、ガラ藻場を形成するホンダワラ類のフェノロジーの研究を精力的に行われると共に、先生のリーダーシップのもとで多くの大学の研究者の協力を得て、藻場（ガラ藻場）の生態の総合的研究が成し遂げられました。

新設の熱帯農学専攻に移られてからは、熱帯海域の海藻資源に関する文部省国際学術調査をフィリピンを対象に2度にわたり主宰されました。これらの調査により、熱帯域の海藻資源の現状ならびに、日本の亜熱帯海域の海藻類との関係等が明らかになってきました。この熱帯域の海藻類の学術調査はその後、高知大学、北海道大学等に引き継がれ、調査海域はベトナム沿岸等にも広がっています。またこの間、日本大学院生の指導のみならず外国人留学生の指導に精力的にあたられ、帰国後母国で指導的役割を担っている人材を育てられました。先生はまた、京都大学農学部だけでなく、京都大学理学部、奈良女子大学理学部、岐阜大学教育学部等でも非常勤講師として藻類学、臨海実習の指導にあたられ、学生達に大きなインパクトを与えました。

日本藻類学会においては、その発起人の一人として学会設立に尽くされ、評議員として学会の発展に貢献され、昭和62年から63年にかけて会長を勤められました。その他、日本水産学会においても長年支部評議員を勤められております。

先生は本当に研究を愛され、後輩の若手研究者を、また学生を愛されておりました。先生と一緒に仕事をされた者、指導を受けた学生達は先生の人柄が大好きでした。京都大学を退官後、一時体調を崩され入院されましたがすぐに回復され、現役時代と同様、むしろあま

り好きでなかった会議等が無い分、より活発に研究活動を続けられ、精力的に論文も発表されていました。福井県立大学で再び教鞭をとられるようになってからも、京都大学のキャンパスへもほぼ2カ月に1度のペースで文献等の調査にお見えになっていました。今年も7月にお見えになられ、そろそろお見えになられる頃だと考えていたところ、9月末の水産学会のおり、福井県立大学の方から先生が9月中ごろ心臓の発作で入院されたが、だいぶ落ち着かれたからそれほど心配ないであろうとの話をうかがった矢先の訃報でありました。入院中も大学のこと、卒業生のことなどを非常に気にされていたとの話もうかがいました。

ここに在りし日の先生を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

(606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学農学研究科熱帯農学専攻水産資源学教室)

主要業績目録

- 1-12. 日本海産藍藻類 (1) - (12). 植研雑 25 (9/12): 224-228 (1950), 26 (7): 203-205, 26 (9): 267-269 (1951), 27 (4): 117-120, 27 (7): 219-222 (1952), 28 (6): 165-170, 28 (7): 201-203, 28 (8): 236-239, 28 (12): 363-366 (1953), 29 (6): 172-176, 29 (7): 217-220 (1954), 31 (2): 33-36 (1956).
13. The marine blue-green algae of Japan. Mem. Coll. Arg., Kyoto Univ. 83: 1-149 (1961).
14. *Yonedaella* nom. nov. Taxon 11 (6): 204 (1962).
15. 真正紅藻類のウミゾウメン目とテングサ目の分類について. 植物分類地理 22 (1/2): 49-63 (1966).
16. The tetrasporophyte of *Nemalion vermiculare* Suringar. Revue Algol. 9 (1): 19-24 (1967).
17. The germination of tetraspores of *Hildebrandia prototypus* Nardo and its life history. J. Jap. Bot. 44 (1): 17-28 (1969).
18. The life histories of some Nemaliales whose tetrasporophytes were unknown. Contributions to the systematics of benthic marine algae of the north Pacific (eds. I.A. Abbott and M. Kurogi), pp. 231-242 (1972).
19. 藍藻 *Trichodesmium* の分類について. 日本プランクトン学会報 20 (2): 93-100 (1974).
20. Ecological studies of *Sargassum thunbergii* (Mertens) O. Kuntze in Maizuru Bay, Japan Sea. Bot. Mag., Tokyo 87 (1008): 285-292 (1974).
21. Life histories in the Florideophyceae and their evolution. Acta Phytotax. Geobot. 28 (1/3): 1-18 (1977).
22. On the life history of *Nemalion vermiculare* Suringar (Rhodophyta) in culture. Bull. Jap. Soc. Phycol. 25 (Suppl.): 129-136 (1977). (with M. Masuda)
23. 藍藻類. 植物の世界. 藻類 3. 週刊朝日百科 115, 朝日新聞社, 東京, pp. 2710-2711 (1978).
24. The life history of *Sphaerotrichia divaricata* (Agardh) Kylin (Phaeophyta, Chordariales) in culture. Jap. J. Phycol. 26 (2): 53-59 (1979). (with T. Ajisaka)
25. 微生物の生態—糸状細胞. 藍藻類の形態変異について. 微生物生態研究会編, 学会出版センター, 東京, pp. 171-196 (1981).
26. Ecological studies of *Sargassum miyabei* Yendo in Maizuru Bay, Japan Sea. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish. 49 (12): 1825-1834 (1983).
27. Ecological studies of *Sargassum homeri* (Turn.) C. Agardh in Obama Bay, Japan Sea. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish. 50 (7): 1193-1200 (1984).
28. Ecological studies of *Sargassum hemiphyllum* C. Agardh in Obama Bay, Japan Sea. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish. 50 (10): 1677-1683 (1984).
29. How many eggs will be discharged from the plant of *Sargassum homeri*? Hydrobiologia 116/117: 398-402 (1984).
30. *Padina* and *Pocockella* species in Luzon Is., Philippines. Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ. 124: 11-34 (1984). (with R.B. Modelo, Jr.)
31. Growth of the stem in *Sargassum ringgoldianum* Harv. subsp. *coreanum* (J. Ag.) Yoshida in Obama Bay, Japan Sea. Bull. Jap. Soc. Sci. Fish. 51 (9): 1441-1445 (1985).
32. 赤潮生物研究指針. 第2章 藍藻. 社団法人日本水産資源保護協会, pp. 36-43, 252-291 (1987).
33. The marine blue-green algae in the Visayas of the Philippines. J. Jap. Bot. 62 (4): 104-117 (1987). (with R.B. Modelo, Jr.)
34. Growth rate studies of *Gracilaria verrucosa* (Gigartinales, Rhodophyta). Bot. Mar. 30 (3): 223-226 (1987). (with A.Q. Hurtado-Ponce)
35. Physical properties of agar gel from *Gracilaria* (Rhodophyta) of the Philippines. Bot. Mar. 31 (2): 171-174 (1988). (with A.Q. Hurtado-Ponce)
36. Comparative photosynthetic capacities of the leaves of upper and lower parts of *Sargassum* plants. Bot. Mar. 31 (3): 231-236 (1988). (with K. Gao)
37. Studies on diurnal photosynthetic performance of *Sargassum thunbergii* II. Explanation of diurnal photosynthetic patterns from examination in the laboratory. Jpn. J. Phycol. 37 (2): 99-104 (1989). (with K. Gao)
38. Life history of the Florideophyceae (Rhodophyta) and their evolution. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 34: 1-24 (1990).
39. The marine blue-green algae of Thailand. Thai Mar. Fish. Res. Bull., 2: 31-45 (1991). (with K. Lewmanomont)
40. Anagnostidis・Komárek の藍藻類の新分類体系の紹介. 藻類 41 (1): 55-67 (1993). (新山優子、渡辺真之と共著)
41. Enumeration of Cyanophyta (blue-green algae) of Japan I. Chroococcales and Oscillatoriales. Jpn. J. Phycol. 42 (2): 175-219 (1994). (with M. Watanabe)
42. Enumeration of Cyanophyta (blue-green algae) of Japan II. Nostocales and Stigonematales. Jpn. J. Phycol. 42 (3): 301-324 (1994). (with M. Watanabe)
43. Marine blue-green algae from Palawan in the Philippines 1. Chroococcales and Oscillatoriales. J. Jpn. Bot. 70: 123-139 (1995).